

11

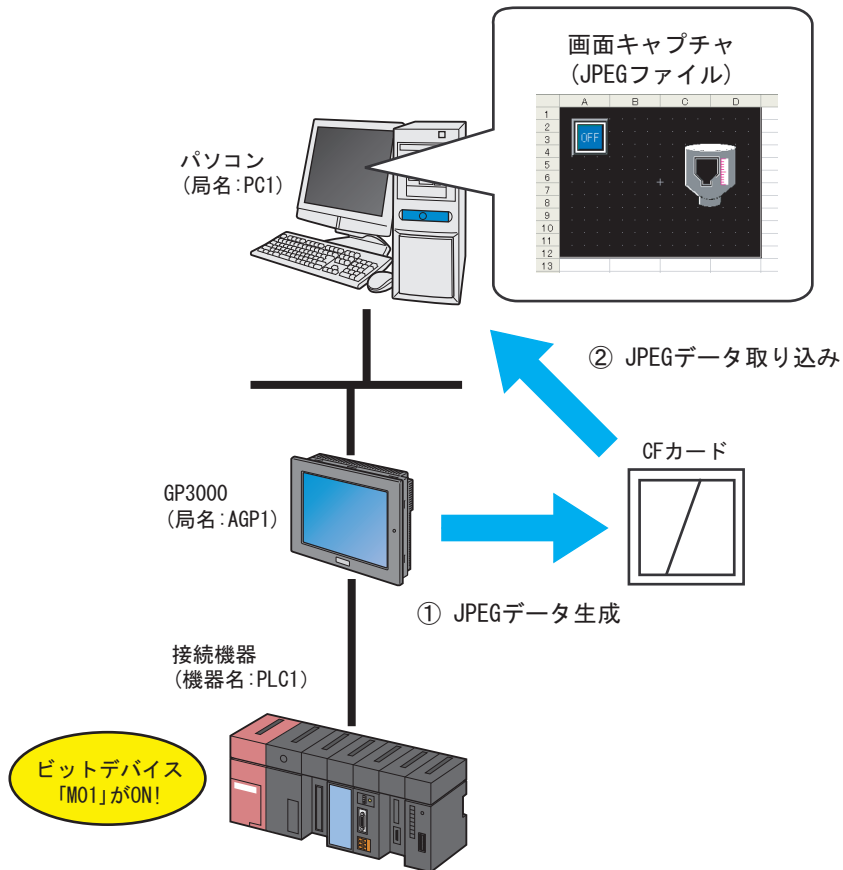
表示器のキャプチャ画面 (JPEG) を取り込みたい！

11.1	あらかじめ指定したタイミングでキャプチャしたい！	11-2
11.2	いますぐキャプチャしたい！	11-22
11.3	制限事項	11-26

11.1 あらかじめ指定したタイミングでキャプチャしたい！

【動作例】

接続機器のデバイス（ビットデバイス：アドレス「M01」）の立ち上がりを検出し、画面キャプチャ（JPEG データ）を表示器の CF カードに保存したあと、パソコンにアップロードする



この節では、例として、上記の動作（アクション）を行うための設定を順番に説明します。

MEMO

- 画面キャプチャを行う際は、表示器に CF カードを装着してください。

【設定手順】

1	『Pro-Studio EX』の起動 (11-4 ページ)	『Pro-Studio EX』を起動します。
2	参加局の登録 (11-4 ページ)	パソコンと表示器を参加局として登録します。
3	シンボルの登録 (11-5 ページ)	起動条件 (トリガ) となる接続機器のデバイスをシンボルとして登録します。
4	機能 (アクション) のパラメータ設定 (11-6 ページ)	以下の項目を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 取り込みデータの選択 • ファイル指定
5	起動条件の設定 (11-10 ページ)	画面キャプチャを行う条件 (トリガ) を設定します。
6	アクションが受け取るデータの設定 (11-13 ページ)	転送するデータを設定します。
7	アクション動作局/処理完了通知の設定 (11-14 ページ)	アクションの動作局およびアクションが実行されたことの通知の有無を設定します。
8	設定内容の確認 (11-16 ページ)	設定内容一覧画面で、設定した内容を確認します。
9	ネットワークプロジェクトファイルの保存 (11-18 ページ)	設定した内容をネットワークプロジェクトファイルとして保存し、リロードします。
10	ネットワークプロジェクトファイルの転送 (11-18 ページ)	保存したネットワークプロジェクトファイルを表示器に転送します。
11	アクションの実行 (11-19 ページ)	設定した起動条件が有効になると、表示器画面のキャプチャデータ (JPEG) が指定した場所に保存されることを確認します。

■ 『Pro-Studio EX』 の起動

『Pro-Studio EX』 を起動します。

起動方法の詳細については、「第 3 章 かる〜く Pro-Server EX を体験してみませんか？」をご覧ください。

■ 参加局の登録

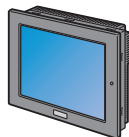
ネットワークに接続しているパソコンと表示器を、参加局として登録します。

参加局の詳細については、「第 31 章 参加局登録について」をご覧ください。



局名 : PC1

IPアドレス : 192.168.0.1



局名 : AGP1

IPアドレス : 192.168.0.100

接続機器情報

設定例

参加局	設定項目	設定内容
パソコン	局名	PC1
	IP アドレス	192.168.0.1
表示器	種類	GP3000 シリーズ
	局名	AGP1
	IP アドレス	192.168.0.100

■ シンボルの登録

デバイスデータを読み出す接続機器のデバイスアドレスをシンボルとして登録します。
シンボルの詳細については、「第 32 章 シンボル登録について」をご覧ください。



設定例

設定項目	設定内容
シンボル名	取り込み開始
データタイプ	ビット
シンボル登録するデバイスアドレス	接続機器 (PLC1) の「M01」
データ個数	1

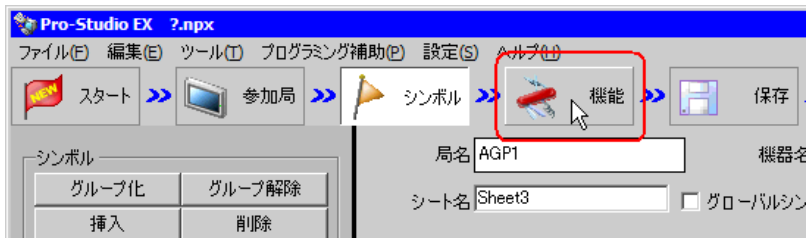
■ 機能（アクション）のパラメータ設定

表示器画面をキャプチャするための設定（パラメータ設定）を行います。
 アクションパラメータの詳細については、「11.1.1 設定ガイド」をご覧ください。

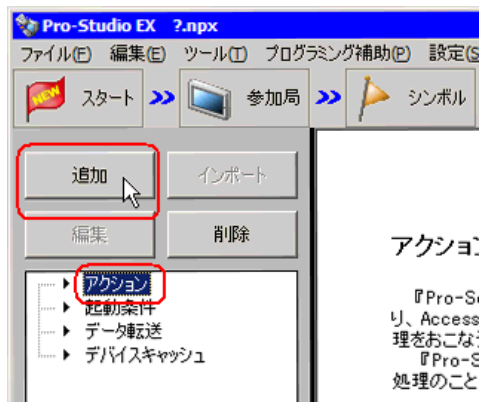
設定例

設定項目	設定内容
取り込みデータの選択	GP 画面のキャプチャデータ
保存先	C:\¥Documents and Settings¥Administrator¥デスクトップ
保存ファイル名	%NODE%Y%M%D%h%m%s
ゼロサブレス	なし
既に同一ファイル名が存在する時	上書き保存
ブラウザ表示	なし

- 1 状態バーの [機能] アイコンをクリックします。

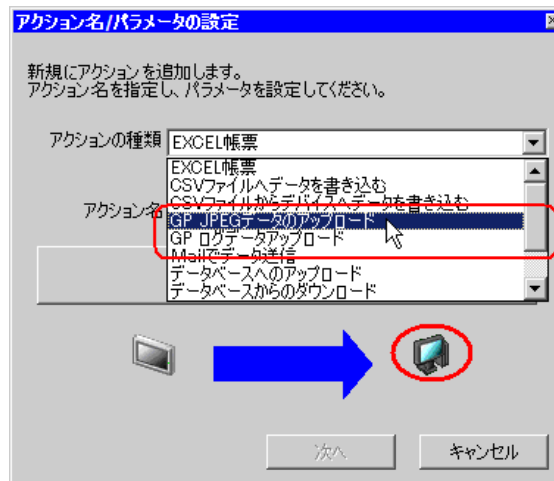


- 2 画面左のツリー表示から、「アクション」を選択し、[追加] ボタンをクリックします。

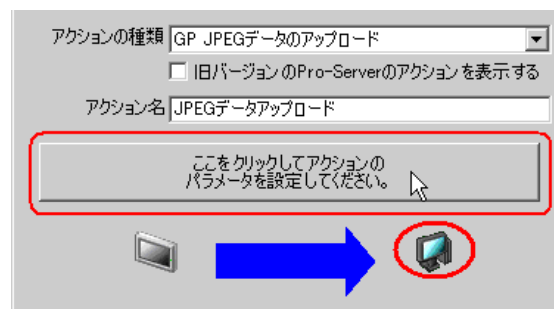


3 [アクションの種類] のリストボタンをクリックし、「GP JPEG データのアップロード」を選択します。

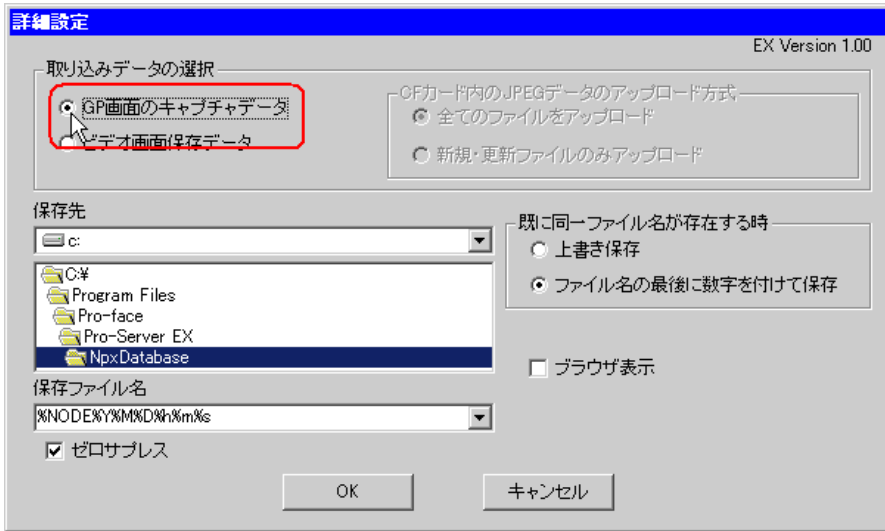
続いて、[アクション名] に設定するアクション名「JPEG データアップロード」を入力します。



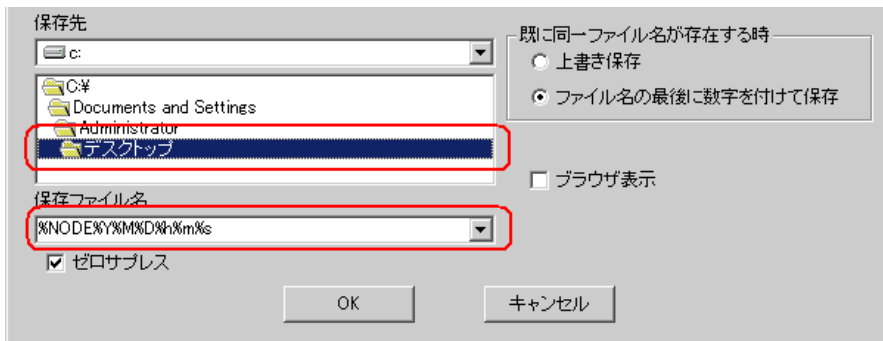
4 [ここをクリックしてアクションのパラメータを設定してください。] ボタンをクリックします。



5 [取り込みデータの選択] で、[GP画面のキャプチャデータ] をチェックします。



6 [保存先] に、データが書き込まれるファイルの保存先フォルダ「デスクトップ」を設定し、保存ファイル名はデフォルトの「%NODE%Y%M%D%h%m%s」とします。



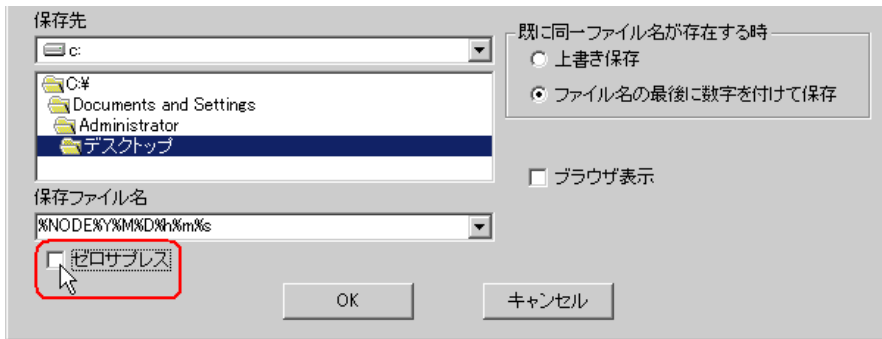
%NODE%Y%M%D%h%m%s とは

キャプチャが行われた参加局名および時刻「参加局名_年_月_日_時分秒」の書式でファイル名を作成します。

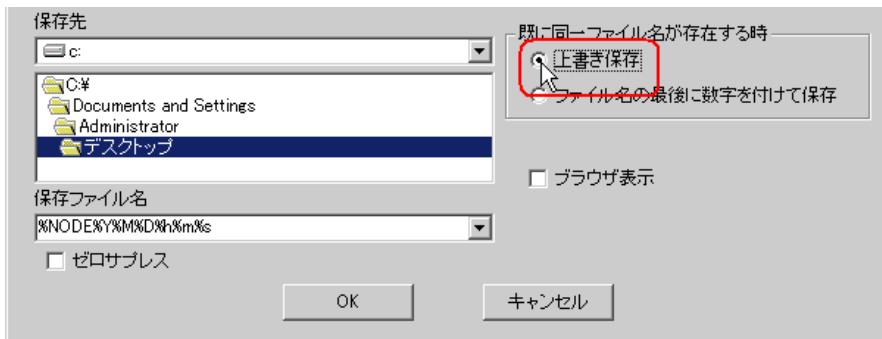
(例) 参加局「AGP1」で、2007年12月15日9時50分15秒にキャプチャが行われたファイル名は、「AGP1_2007_12_15_095015」となります。

詳細については、「37.1 名前の制限事項」をご覧ください。

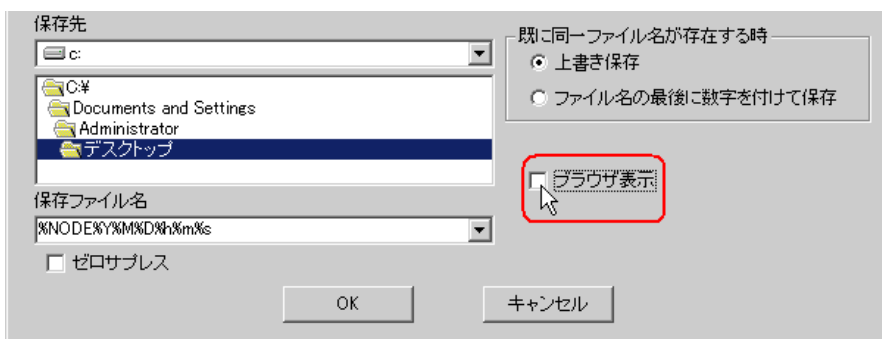
7 [ゼロサプレス] がチェックされている場合は、チェックを外します。



8 [既に同一ファイルが存在する時] で、[上書き保存] を選択します。



9 [ブラウザ表示] がチェックされている場合は、チェックを外します。



10 [OK] ボタンをクリックします。

以上で、機能（アクション）の設定は終了です。

■ 起動条件の設定

画面キャプチャを行う条件（トリガビット ON）を設定します。

起動条件の詳細については、「第 33 章 起動条件について」をご覧ください。

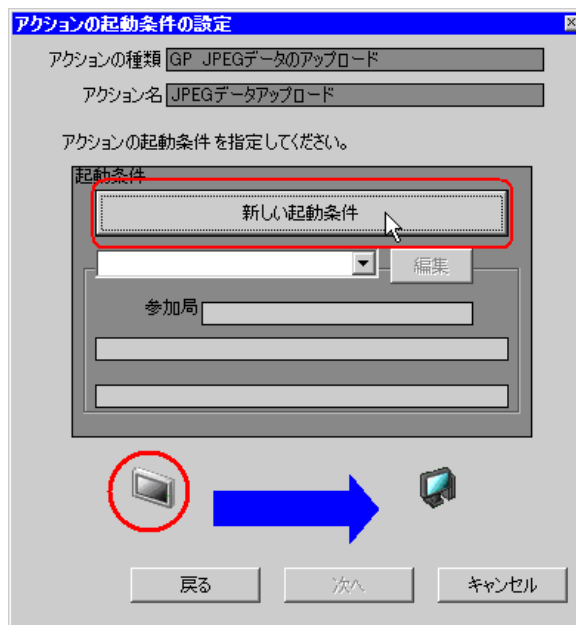
設定例

- 起動条件名 : 取り込み開始ビットを ON する
- 起動条件 : 「取り込み開始」(M01) ON 時

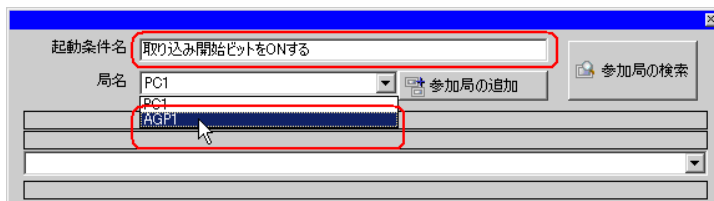
1 「アクション名 / パラメータの設定」画面で、[次へ] ボタンをクリックします。



2 [新しい起動条件] ボタンをクリックします。



- 3 [起動条件名] に、起動条件名「取り込み開始ビットをONする」を入力し、[局名] に、起動条件となるデバイスを持つ局名「AGPI」を選択します。

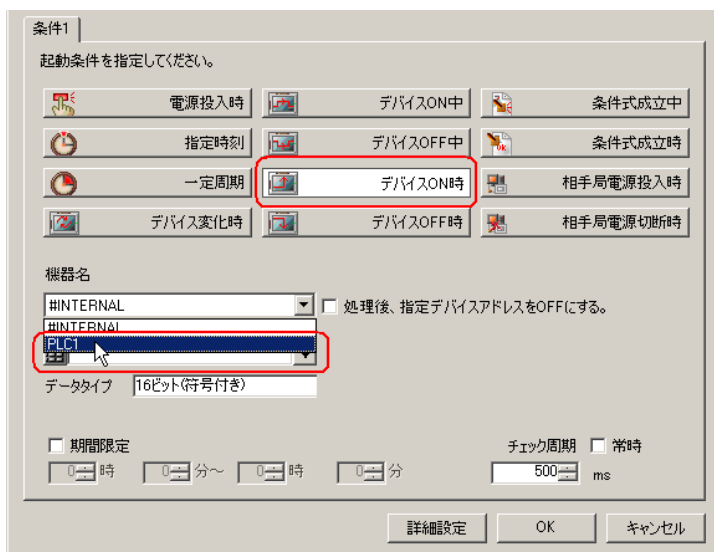


MEMO

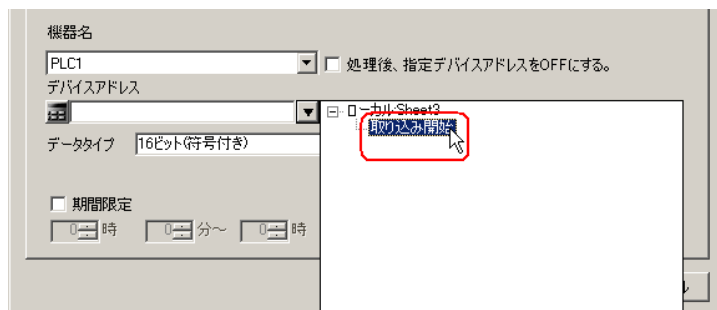
- ここで設定する局名は、起動条件となるデバイスを持つ参加局を指定します。

👉「第 33 章 起動条件について」

- 4 [条件 1] タブの [デバイス ON 時] ボタンをクリックし、機器名に「PLC1」を選択します。



- 5 [デバイス] のリストボタンをクリックし、トリガとなるデバイスのシンボル名「取り込み開始」を選択します。



選択後、[データタイプ] も自動的に表示されます。

MEMO

- 起動条件については、2種類の異なる条件の組み合わせ（「かつ」（and 条件）、「または」（or 条件））により設定することもできます。

☞「第 33 章 起動条件について」

- 6 [OK] ボタンをクリックします。

以上で、起動条件の設定は終了です。

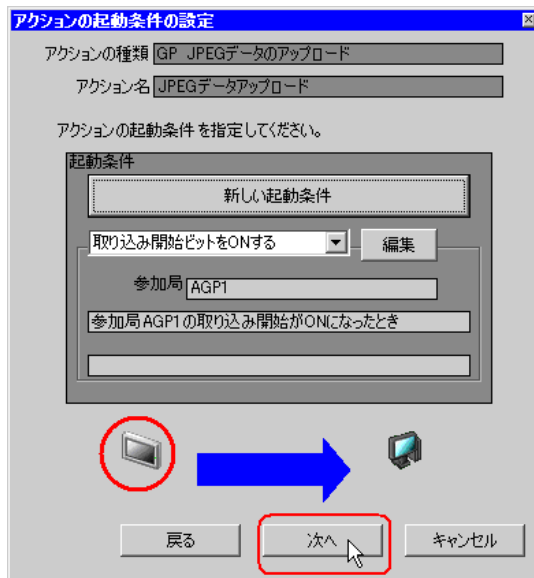
■ アクションが受け取るデータの設定

アクション動作時に転送するデータを設定します。
転送データ（定数値）はどんな値でも構いません。

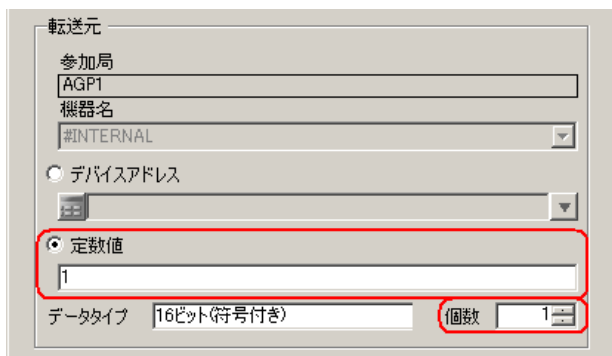
設定例

- 転送する定数値 : 1

1 「アクションの起動条件の設定」画面で、[次へ] ボタンをクリックします。



2 [定数値] をクリックしたあと、テキストボックスに転送する定数値「1」、[個数] に「1」を設定します。



MEMO

- シンボルやデバイスアドレスを指定し、格納されている値を転送データとすることもできます。

以上で、アクションが受け取るデータの設定が終了しました。

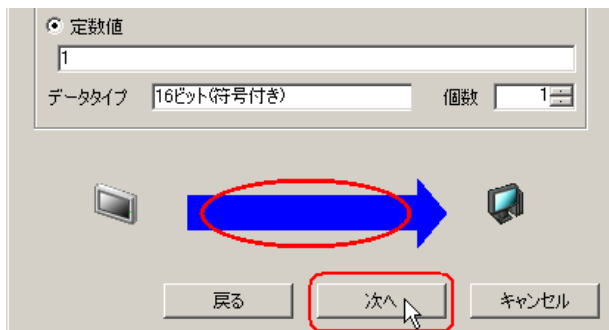
■ アクション動作局／処理完了通知の設定

アクションが動作する局名、およびアクションが実行されたことの通知の有無を設定します。

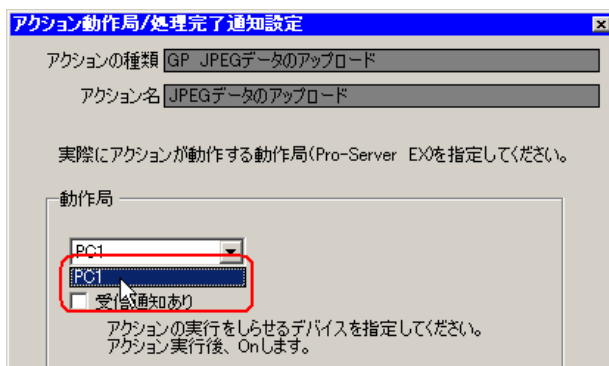
設定例

- 動作局 : PC1
- 受信通知 : なし

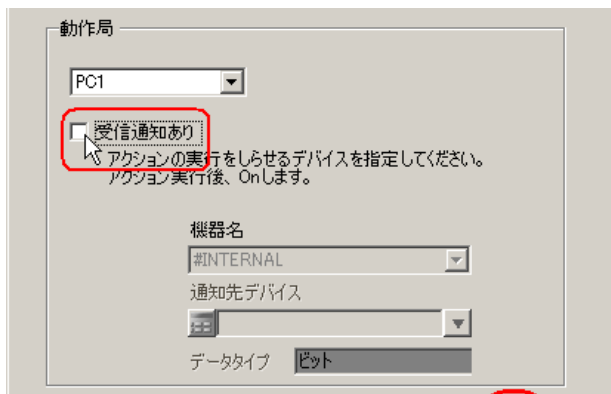
1 「アクションが受け取るデータの設定」画面で、「次へ」ボタンをクリックします。



2 [動作局] のリストボタンをクリックし、アクションが動作する局名「PC1」を選択します。



3 [受信通知あり] がチェックされている場合は、チェックを外します。



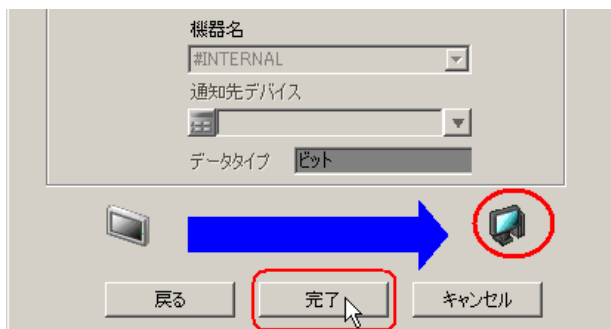
MEMO

- 「受信通知」を設定すると、アクション完了後に、指定したビットデバイスが ON になります。2 つ以上のアクションを連続して実行する場合、次のアクションの起動条件（トリガ）として使用することができます。

👉「第 33 章 起動条件について」

4 [完了] ボタンをクリックします。

「アクション動作局 / 処理完了通知設定」画面が閉じ、画面左に、設定したアクション名が表示されます。



以上で、アクション動作局および処理完了通知の設定が終了しました。

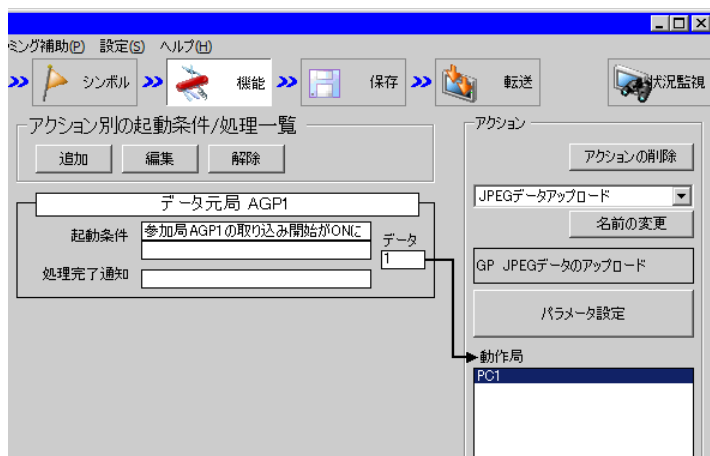
■ 設定内容の確認

設定内容の一覧画面で、設定した内容を確認します。

- 1 画面左のツリー表示から、アクション名「JPEG データアップロード」をクリックします。



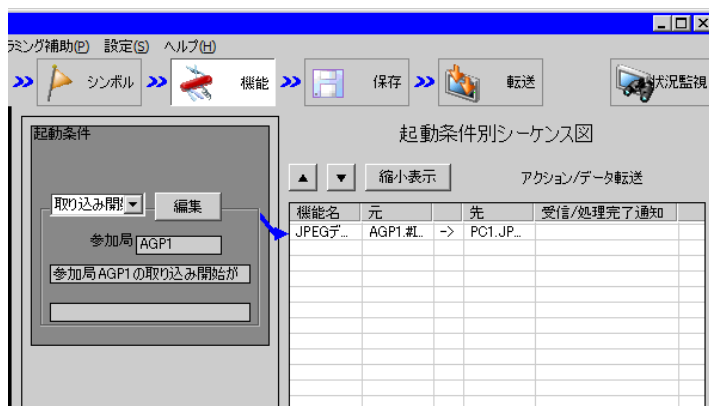
設定した内容が、画面右に表示されていることを確認します。



2 画面左のツリー表示から、起動条件名「取り込み開始ビットを ON する」をクリックします。



設定した内容が、画面右に表示されていることを確認します。



以上で、設定内容の確認が終了しました。

■ ネットワークプロジェクトファイルの保存

設定した内容を、ネットワークプロジェクトファイルとして保存し、『Pro-Server EX』にリロードします。

ネットワークプロジェクトファイルの保存については、「第 25 章 保存について」をご覧ください。

重要

- 『Pro-Server EX』は、ネットワークプロジェクトファイルを読み込み、そこに設定された内容によりアクションを実行します。したがって、設定した内容は必ずネットワークプロジェクトファイルとして保存する必要があります。
- ネットワークプロジェクトファイルの『Pro-Server EX』へのリロードは必ず行ってください。リロードを行わないとアクションが動作しません。

設定例

- ネットワークプロジェクトファイルのパス : デスクトップ¥capture.npx
- タイトル : JPEG アップロードアクション

■ ネットワークプロジェクトファイルの転送

保存したネットワークプロジェクトファイルを、『Pro-Server EX』にロードし、参加局に転送します。ネットワークプロジェクトファイルの転送については、「第 26 章 転送について」をご覧ください。

MEMO

- ネットワークプロジェクトファイルの転送は、必ず行ってください。転送を行わないとアクションが動作しません。

■ アクションの実行

起動条件が有効になった時点で、アクションが動作して表示器の画面キャプチャデータが指定した場所に保存されることを確認します。

重要

- 表示器画面をキャプチャするためには、表示器の内部デバイス LS2076 のビット 0 を ON してください。キャプチャ実行中は、LS2077 のビット 0 が ON し、終了すると OFF します。



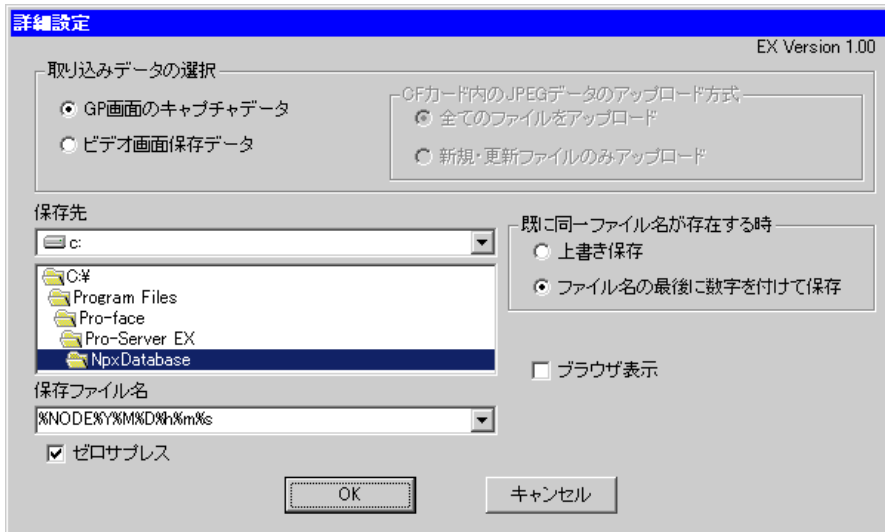
MEMO

- エラーが発生した場合、ログビューアでログを確認することができます。詳細については、「28.5 システム稼動ログが見たい！」をご覧ください。
- アクションを実行時の通信速度の向上を図りたい場合は、「第 29 章 通信を速くするひと工夫！」をご覧ください。

以上で、このアクションの説明は終了です。

11.1.1 設定ガイド

この節では、アクションのパラメータのくわしい設定のしかたについて説明します。



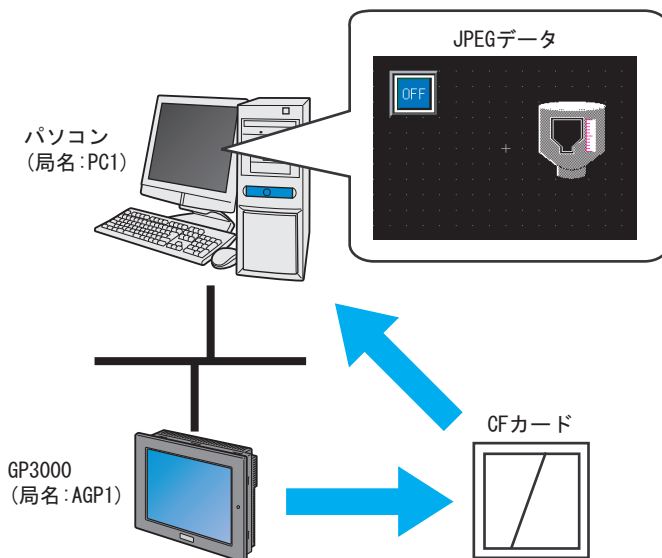
設定項目	設定内容
取り込みデータの選択	<p>取り込むデータを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> GP画面のキャプチャデータ 表示されている表示器画面のキャプチャを行い、アップロードします。 ビデオ画面保存データ すでに表示器のCFカードに保存されているビデオ画面データをアップロードします。 <p>このとき、[保存ファイル名]、[ゼロサプレス]、[ブラウザ表示]の各項目の設定はできません。また、一度にアップロードできるJPEGファイル数の最大値は32767となります。</p>
CFカード内のJPEGデータのアップロード方式	<p>[取り込みデータの選択]で[ビデオ画面保存データ]を選択した場合、CFカード内のビデオ画面データの全てをアップロードするか、[保存先]で設定するディレクトリに存在しないファイルまたは更新されているファイルのみをアップロードするかを選択します。</p>
保存先	<p>取り込んだキャプチャデータの保存先フォルダを選択します。</p> <p>初期設定は、Cドライブ(C:)のフォルダが表示されています。</p> <p>表示するドライブを変更する場合は、リストボタンをクリックし、ドライブを選択します。</p>
保存ファイル名	<p>保存ファイル名を設定します。</p> <p>初期設定は、「%NODE%Y%M%D%h%m%s」が表示されています。(「%NODE」は参加局名)</p> <p>MEMO</p> <ul style="list-style-type: none"> 保存ファイル名にマクロ記号を指定することにより、ファイル名を参加局名やデバイスデータに設定することができます。 <p>☞「37.1 名前の制限事項」</p>

設定項目	設定内容
ゼロサプレス	保存ファイル名を「%NODE%Y%M%D%h%m% <u>s</u> 」に設定している場合、チェックすると 0 の桁位置を表示しません。 (例) 保存ファイル名に「%h%m」を指定した場合の、7時31分に書き出されるファイル名 チェックあり：..._7_31...xls チェックなし：..._07_31...xls
既に同一ファイル名が存在する時	上書き保存する場合は [上書き保存] を、上書き保存を行わない場合は [ファイルの最後に数字をつけて保存] をチェックしてください。
ブラウザ表示	取り込んだキャプチャデータを専用の JPEG ファイルブラウザで表示します。専用ブラウザでは印刷、コピー、JPEG ファイルに関連付けされた Viewer (『Microsoft ^(R) Internet Explorer ^(R) 』や『Paint』など) での表示ができます。

11.2 いますぐキャプチャしたい！

【動作例】

現在稼働中の表示器に表示されている画面のキャプチャデータを保存する



この節では、例として、上記の動作（アクション）を行うための設定を順番に説明します。

MEMO

- 画面キャプチャを行う際は、表示器にCFカードを装着してください。
- この機能を使用するためには、『Pro-Server EX』がロードしているネットワークワークプロジェクトファイルと同じファイルで設定する必要があります。
状況監視メニューで『Pro-Server EX』がロードしているネットワークプロジェクトファイルを確認できます。

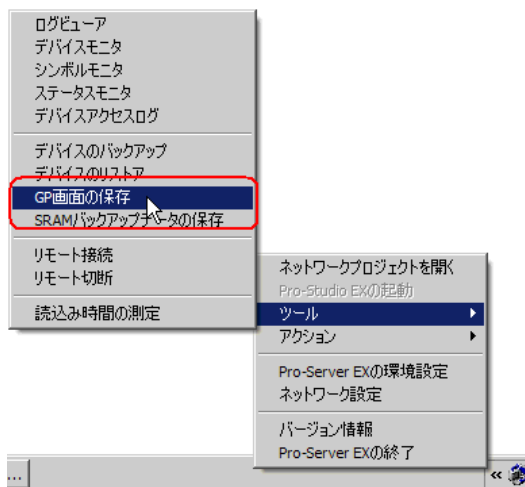
👉 「28.5 システム稼働ログが見たい！」

- 1 メニューバーの [ツール] から、[GP 画面の保存] をクリックします。

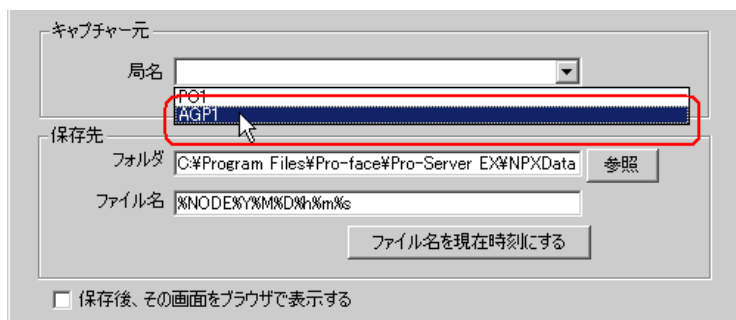


MEMO

- タスクトレイアイコンを右クリックし、メニューから [GP 画面の保存] を選択しても「GP 画面の保存」画面が表示されます。



- 2 リストボタンをクリックし、キャプチャ画面を保存する表示器を選択します。



3 [参照] ボタンをクリックし、[フォルダ] にキャプチャ画面の保存先となるフォルダを設定します。

4 [ファイル名] に、保存するキャプチャ画面のファイル名を指定します。

5 [保存] ボタンをクリックします。

重要

- 表示器画面をキャプチャするためには、表示器の内部デバイス LS2076 のビット 0 を ON してください。キャプチャ実行中は、LS2077 のビット 0 が ON し、終了すると OFF します。

11.2.1 設定ガイド

■ 「GP 画面の保存」画面

設定項目		設定内容
キャプチャー元	局名	画面を取り込む表示器を選択します。
保存先	フォルダ	取り込むデータの保存先フォルダを指定します。 初期設定は、C ドライブ (C:) のフォルダが表示されています。 表示するドライブを変更する場合は、リストボタンをクリックし、ドライブを選択します。
	ファイル名	保存ファイル名を設定します。
	ファイル名を現在時刻にする	ファイル名を、現在時刻 (%NODE%Y%M%D%h%m%s) にします。 (「%NODE」は参加局名)
保存後、その画面をブラウザで表示する		チェックすると、取り込んだデータを専用の JPEG ファイルブラウザで表示します。 専用ブラウザでは、印刷、コピー、JPEG ファイルに関連付けされたビューワ (『Microsoft ^(R) Internet Explorer ^(R) 』や『Paint』など) での表示ができます。

11.3 制限事項

- CF カードスロットまたは SD カードスロットがない機種では、表示器のキャプチャ画面を取り込むことはできません。
- 表示器の表示更新負荷が高い状態で Pro-Server EX から表示器の画面キャプチャを取得すると、表示器側でのキャプチャ画面の JPEG 保存に失敗し、エラーが発生する場合があります。